

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

後藤滋樹
goto@goto.info.waseda.ac.jp
早稲田大学 理工学部 情報学科

第24回「ヨボセヨの威力」

韓国の首都ソウルの街角に立つと、外国という実感がわかない。日本人の私には見慣れた風景である。しかし、看板の字を読もうとした途端、ハングルの洪水が押し寄せてくる。こういうのをカルチャーショックというのだろうか。実に面白い感覚を味わった。

【ヨボセヨ】

私はどの国に滞在する時でも、なるべくその国の友人と一緒に食事をするように心がけている。それは友情を深める目的でもあるが、日本人だけで食事をする、なぜか食費が高くなるという経験則があるからだ。旅行者が安いレストランを見つけれないのは当然と言えば当然だ。

さて、滞在が長くなると、相手国の友人も一巡してしまう。こちらも「自分たちだけで地下鉄に乗ってみよう」というチャレンジ精神があるから、いざ出陣だ。なに、バスは難しいけど地下鉄ならば簡単だよ。

今回の韓国訪問には家内と娘が同行したので、家族3人でソウルの繁華街の明洞^{ミョンドン}に到着する。雨が降りそうになったので、ロッテデパートで傘を買った。ロッテの紙袋を下げていると、この街の風景に完全に溶け込む。

さて、食事だ。向こうの明洞餃子には以前に行ったからなあ。それじゃ、こっちのカルビはどう？ ガイドブックにも載っているわよ。日本語が通じるらしいし。

確かに、日本語版のメニューが用意されている。店内を見回すと日本人客が多い。カルビといっても自分のテーブルで焼くのではなく、でき上がったのを運んでくるのだ。これはなかなかよい味だぞ。しかし、のどが渇いたなあ。おい、水は何だっけ？ 水は「ムル」というのよ。

このカルビの店は大繁盛で客が多い。

ウェイトーが次々に料理を運んでくる。おい、水をください。すみません！ 日本語じゃダメか。娘はいろいろと試す。エクスキューズミー。ハロー。それでも振り向かない。それじゃ、ヨボセヨって言うてみよう。ヨボセヨ(もしもし)

これでウェイトーはピタリと立ち止まる。うーむ。言葉の力は偉大だ。

여보세요

| | | | | | |
|---|----|---|---|---|----|
| 無 | YO | B | S | E | 無 |
| | | O | | | YO |

○最初のYOと最後のYOは微妙に違う。

【チョンボの語源は中国語】

新・社会楽の第20回(96年9月号312ページ)で「情報」の発音が「チョンボ」であることを紹介した。その後、読者諸兄から多くの電子メールを頂戴した。その中で大西浩史さん(日立製作所日立研究所)からは、チョンボの語源は韓国語ではなく、中国語だろうというご教示をいただいた。

大西さんによると、麻雀には次のような用語がある。

錯和(ツォホー): 過失による間違い上がり

冲和(チュンホー、チョンホー): 故意の間違い上がり

この2つをを総称してチョンボと称する由。いずれにしても間違い上がりのことを指す。

なるほど納得。この意味ならば日本語のチョンボの用例と合致する。

【インターネットとチョコレート】

第20回には、もう1つ疑問点を呈示した。Internetをハングルで表記すると「インタネッ」となるということだ。これに関しては、私がソウルの街を徘徊^{はいかい}しているうちに類似の例題を見つけた。それはチョコレートである。

例によって、チョコレートのハングル表記を要素に分解する。これをカタカナで表せば「チョコレッ」となる。このように、私はまだハングルを分解して解読している。だから読むのがとても遅いのだ。地下鉄の駅名が瞬間に読めないのは悔しい。

しかし、ソウルの地下鉄は私のような初心者でも便利に乗れる。それは駅に一連の数字がふってあるからで、駅名の表示板にも大きな数字が書いてある。もちろん地図にも数字が掲載されているから照合できる。単純な路線では数字が単純に増減するから、駅の数も分かる仕組みだ。

この数字を頼りに私は地下鉄に乗り、韓国のインターネットプロバイダーの大手I*Netテクノロジー社を訪問した。

ここぞ韓国の「インタネッ」の本場と思ったのであるが、同社の名刺には「インタネット」と表示されていた。うーむ。「ト」の字がある。表記法は1通りではないらしい。深まる謎...





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp